

英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立つ能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語翻訳に必要な英米語圏の諸分野に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

専門的職業人として、英語力を駆使して資料を的確に分析して発展的研究のための問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会が抱える課題を自律的かつ主体的に探索・解決することができる。

教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語翻訳研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7	Project Work (II): Translation Principles
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to organize review and preparation items after each class.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国文化研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

中国文化研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回 イプセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国民族文化研究【昼】

担当者名 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民族文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 現代中国語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 中国民族文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民族文化研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国民族文化研究「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、少数民族の匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や文学作品を系統的に読解することで、中国民族文化理解に資することを目的とする。

中国四大美人の一人として有名な王昭君は、漢民族と少数民族の融和と悲劇の象徴として、歴代の種々の詩文戯曲小説に描かれてきた。中国文学史、中国民族文化史上に占める王昭君の意義は今日も全く失われていない。

関連する作品は多数に上る。時間が限られた1学期の授業では、まず王昭君に関する歴史記録を確認した上で、宋代王安石の「明妃曲」、次いで欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

授業では、毎週担当者が30分程度で所定の作品内容について報告し、その後は担当者一受講生が自由に討論する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料を担当者が毎回準備する。インターネット情報について、利用者が内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『古文真宝(前集)下』(星川清孝、明治書院、新釈漢文大系10、昭和42年)
- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
- 『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する歴史記録を踏まえた上で、『古文真宝』に収録する王安石の「明妃曲」、欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

- 一 はじめに 授業の目的と概要の紹介
- 二 『漢書』巻9元帝紀・巻94匈奴伝
- 三 『後漢書』巻89南匈奴伝
- 四 『西京雜記』巻2画工棄市
- 五 王安石「明妃曲」その一(明妃初出漢宮時一当時枉殺毛延寿)
- 六 王安石「明妃曲」その二(一去心知更不帰一人生失意無南北)
- 七 王安石「明妃曲二」その一(明妃出嫁与胡兒一彈看飛鴻勸胡酒)
- 八 王安石「明妃曲二」その二(漢宮侍女暗垂淚一尚有京絃留至今)
- 九 欧陽脩「明妃曲」その一(漢宮有佳人一万里安能制夷狄)
- 十 欧陽脩「明妃曲」その二(漢計誠已拙一莫怨春風当自嗟)
- 十一 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その一(胡人以鞍馬一胡人共聽亦咨嗟)
- 十二 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その二(玉顔流落死天涯一豈知此声能斷腸)
- 十三 小まとめ 王安石・欧陽脩の「明妃曲」について
- 十四 「昭君出塞」関連ビデオ
- 十五 まとめ 中国文学における王昭君故事の意義

中国民族文化研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館、ネット情報等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像の視聴等を行う。

履修上の注意 /Remarks

調査発表や討論は日本語を主とするが、作成する資料等は中国文でも構わない。
また、wiki等のネット情報については、鵜呑みにするのではなく、批判的に活用するように心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

王昭君は中国漢代の人ですが、平安時代頃に日本にも知られるようになりました。特に平安初期の嵯峨天皇は王昭君を題にした漢詩を詠んだことで有名です。楊貴妃にしろ、李白にしろ、日本人はこれら外国人に身内のような親近感を持ちます。音楽やスポーツ同様、文学にも実は国境はありません。皆さんも、文字の違いはあっても国境は無い王昭君像に興味を持ってもらいたく思います。

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 古文真宝 少数民族 匈奴 王安石 欧陽脩

中国語教授法研究【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

発音・文法・表現を中心にして、現代言語学理論、特に認知言語学・機能主義・相互作用言語学の視点より日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

具体的な目標：

- 1) 翻訳法・直接法・功能法などの第二言語教授法について、それぞれの特徴を考察した上、中日比較による中国語教授法のシステムを確立させる。
- 2) 比較による中国語教授法における各段階の授業内容・細目を構築する。
- 3) 地球規模で一体化した現代世界で求められる人材における素質として外国語の学習能力と教育能力を身に付ける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。

【高い問題解決能力と表現力】

先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上で問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を自律的に取り込んで、自分なりの講義ポイントを主体的に積み重ねることができる。

教科書 /Textbooks

『中日比較による中国語教授法』（授業中配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 『基於比較的漢語教學法』 朋友書店
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及話語理解』 朋友書店
- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版） 駿河台出版社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同友社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

中国語教授法研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 外国語教授法における「二大体系」・相互作用言語学 (Interactive linguistics) による教授法の新展開
- 第2回 第二言語教育の視点から中国語を見る
- 第3回 比較法による発音教育・語彙教育
- 第4回 品詞教授法の一：デフォルト値と場所性
- 第5回 品詞教授法之二：計量・個性化・イメージ化
- 第6回 品詞教授法之三：A B式・重ね型・区別詞
- 第7回 品詞教授法之四：方式視点と目的視点
- 第8回 品詞教授法之五：実現重視・変化重視・存続重視
- 第9回 品詞教授法之六：粘着と関連・接着剤と形式マーク
- 第10回 表現教授法の一：「主観任意性と無方向性」
- 第11回 表現教授法之二：「客観条件・技術能力・主観判断」
- 第12回 表現教授法之三：「補充と説明・主体説明と事項説明」
- 第13回 表現教授法之四：「常識依存と文脈依存」
- 第14回 表現教授法之五：「意味本位と形式本位」
- 第15回 教材の編成・練習問題設定・CEFRと能力測定・誤用対策

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100%で評価。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について、参考文献等を読み、中日両言語の実例を収集し、分析しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

参加型の講義なので、外国語を学習する経験を生かし、学習者の立場で積極的な効果的な教育方法を探索するよう望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「教学相長ず」という名言で言っているように、人に教えることと師から学ぶことは相補い合うもので、両方を経験してはじめて学業も向上する。是非この講義の参加を通じて自分の情報受信能力と思考発信能力を高めよう。

キーワード /Keywords

第二言語教授法 相互作用言語学 比較法 各教授法の教材編成における原則 CEFRと能力測定

中国民間文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日の中国にどう活かされているかについて考える。

授業では、毎回担当者が30分程度、『中国俗文学史』に示された当該題目について調査発表し、その後、受講生全員で自由討論する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と方言に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国民間文学に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

○『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）

※どの版本を用いてもよい。ネット情報も、内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）

※どの版本を用いてもよい。

中国民間文学研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各章を前後二回に分け、担当者が前30分で内容紹介する。残りの時間は全員が自由に討論する。教員は適宜総括する。前期の予定は次の通りである。

- 一 はじめに 鄭振鐸と『中国俗文学史』について 【鄭振鐸の生涯と『中国俗文学史』の成書について学習する。】
- 二 第一章 何謂「俗文学」前半 【俗文学とは何か。前。正統文学と対比しつつ、その近代的意義を検討する。】
- 三 第一章 何謂「俗文学」後半 【俗文学とは何か。後。その分類を行い、中国文学史における特質を分析する。】
- 四 第二章 古代的歌謡 前半 【古代の歌謡。前。主に北方『詩経』の歌謡について、その特徴等を検討する。】
- 五 第二章 古代的歌謡 後半 【古代の歌謡。後。主に南方『楚辞』の歌謡について、その特性等を分析する。】
- 六 第三章 漢代的俗文学 前半 【漢代の俗文学。前。主に漢代初期の楚風文学について、その特徴等を検討する。】
- 七 第三章 漢代的俗文学 後半 【漢代の俗文学。後。主に古詩、無名氏の詩について、その特性等を分析する。】
- 八 第四章 六朝的民歌 前半 【六朝の民歌。前。主に六朝時代北朝の楽府について、その特徴等を検討する。】
- 九 第四章 六朝的民歌 後半 【六朝の民歌。後。主に六朝時代南朝の楽府について、その特性等を分析する。】
- 十 第五章 唐代的民間歌謡 前半 【唐代的民間歌謡。前。主に唐代前期の民間歌謡の特徴等を検討する。】
- 十一 第五章 唐代的民間歌謡 後半 【唐代的民間歌謡。後。主に唐代後期の民間歌謡の特性等を分析する。】
- 十二 第六章 敦煌変文 前半 【敦煌変文。前。敦煌変文の出土状況や分類について学習する。】
- 十三 第六章 敦煌変文 後半 【敦煌変文。後。王昭君や伍子胥等、正統文学と関わる諸作品について検討する。】
- 十四 第七章 宋金の雜劇詞 前半 【宋金代の雜劇詞。前。主に宋金代北方における雜劇詞の特徴等を検討する。】
- 十五 第七章 宋金の雜劇詞 後半 【宋金代の雜劇詞。後。主に宋金代南方における雜劇詞の特性等を分析する。】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日頃の授業への取り組み50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行う。ネット情報も内容に留意しつつ活用する。

履修上の注意 /Remarks

発表や質問は日本語を用いるが、作成資料は中文使用可です。
自由質問の時間は、全ての受講生に質問を促します。「何もしません」はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

発表資料の作成に当たって、wiki等のネット資料を渉猟することは差し支えありませんが、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に取り入れるように心がけてください。

キーワード /Keywords

鄭振鐸 中国俗文学史 民間文学

中国文化史研究【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国語理解に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国語理解に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語理解

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国語理解に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国語理解に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

中国文化史研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

比較広域文化研究【昼】

担当者名 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	日本の文化に関する深い知識を身に付け、さまざまな他文化との比較研究を通じて、専門的職業人として国際社会及び地域社会に貢献できる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△	日本文化並びにさまざまな他文化に関する深い学識を備えた専門家として、広範囲にわたる資料を駆使し、分析・研究できるようにする。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	比較文化の専門的な知識と研究能力を生かし、グローバル社会における課題を自ら解決できるようにする。	
			比較広域文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、世界各地に存在する有形・無形の文化財についての文献を講読し、文化財の保存・管理とその活用のありようや様々な問題点について見識を深めたい。また、論文の構成、主張の意義と妥当性、文章表現等について議論しながら論文の執筆方法を十分に理解し、履修者の修士論文に活かしたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針の説明
- 2回 文献講読【文化財の概念】
- 3回 文献講読【「世界遺産」の諸問題】
- 4回 文献講読【フランスにおける文化財の保存・管理】
- 5回 文献講読【日本における文化財の保存・管理】
- 6回 文献講読【イスラエルにおける文化財の保存・管理】
- 7回 文献講読【アラブ世界における文化財の保存・管理】
- 8回 文献講読【「無形文化遺産」の諸問題】
- 9回 文献講読【景観-日本-】
- 10回 文献講読【景観-ヨーロッパ-】
- 11回 文献講読【文化財と地域経済】
- 12回 文献講読【博物館と観光】
- 13回 文献講読【遺跡と観光】
- 14回 文献講読【アラブ世界における宗教の観光資源化】
- 15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度（授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙）・・・50%、期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講前には指定された文献を必ず読んでおくこと。発表者は入念に準備すること。受講後は、独習時には気づかなかった点、理解できなかった点などを復習しておくこと。

比較広域文化研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ比較文化研究 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ヨーロッパ比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012. の精読を通じて、スペイン演劇の概要を知るとともに、それぞれの時代のスペイン内外の演劇テキストを参照しながら、その発展を考察する。授業参加者は担当箇所についての発表を行うものとし、その後、他の参加者との議論を行うものとする。

到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

スペイン演劇史について、専門的知識を培う。

《高い問題解決能力と表現力》

時代ごとの特徴を把握理解した上で、作品の比較研究、批評ができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

みずから設定した課題に、学術的に妥当なアプローチで取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アリストテレス『詩学』光文社古典新訳文庫、2019.

富田広樹『エフィメラル』論創社、2020.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業運営についての説明と書誌案内
2. 第1章の精読と発表
3. 第2章の精読と発表
4. 第3章の精読と発表
5. 第4章の精読と発表
6. 第5章の精読と発表
7. 第6章の精読と発表
8. 第7章の精読と発表
9. 第8章の精読と発表
10. 第9章の精読と発表
11. 第10章の精読と発表
12. 第11章の精読と発表
13. 第12章の精読と発表
14. 第13章の精読と発表
15. まとめ

ヨーロッパ比較文化研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、70% 学期末レポート、30%により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して成績評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された作品や文献の参照と授業内容のレビューをすること。

履修上の注意 /Remarks

題材はスペイン演劇であるが、テキストは英語なので、スペイン語を履修していなくても履修は可能。ただし十分な英語能力を有すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN532S	○	◎	△
科目名	英語翻訳研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

- To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
- To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
- To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- major translation theories
- pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- heuristic procedures in problem-solving translation drills

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語翻訳に必要な英米語圏の諸分野に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

専門的職業人として、英語力を駆使して資料を的確に分析して発展的研究のための問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会が抱える課題を自律的かつ主体的に探索・解決することができる。

教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語翻訳研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7	Project Work (II): Translation Principles
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to organize review and preparation items after each class.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国文化研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE510S	◎	○	△
科目名	中国文化研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した茅盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国文理解に必要の基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

中国文化研究概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国民族文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE512S	○	◎	△
科目名	中国民族文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国民族文化研究「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、少数民族の匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や文学作品を系統的に読解することで、中国民族文化理解に資することを目的とする。

中国四大美人の一人として有名な王昭君は、漢民族と少数民族の融和と悲劇の象徴として、歴代の種々の詩文戯曲小説に描かれてきた。中国文学史、中国民族文化史上に占める王昭君の意義は今日も全く失われていない。

関連する作品は多数に上る。時間が限られた1学期の授業では、まず王昭君に関する歴史記録を確認した上で、宋代王安石の「明妃曲」、次いで欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

授業では、毎週担当者が30分程度で所定の作品内容について報告し、その後は担当者一受講生が自由に討論する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料を担当者が毎回準備する。インターネット情報について、利用者が内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『古文真宝(前集)下』(星川清孝、明治書院、新釈漢文大系10、昭和42年)
- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
- 『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する歴史記録を踏まえた上で、『古文真宝』に収録する王安石の「明妃曲」、欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

- 一 はじめに 授業の目的と概要の紹介
- 二 『漢書』巻9元帝紀・巻94匈奴伝
- 三 『後漢書』巻89南匈奴伝
- 四 『西京雜記』巻2画工棄市
- 五 王安石「明妃曲」その一(明妃初出漢宮時一当時枉殺毛延寿)
- 六 王安石「明妃曲」その二(一去心知更不歸一人生失意無南北)
- 七 王安石「明妃曲二」その一(明妃出嫁与胡兒一彈看飛鴻勸胡酒)
- 八 王安石「明妃曲二」その二(漢宮侍女暗垂淚一尚有哀絃留至今)
- 九 欧陽脩「明妃曲」その一(漢宮有佳人一万里安能制夷狄)
- 十 欧陽脩「明妃曲」その二(漢計誠已拙一莫怨春風当自嗟)
- 十一 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その一(胡人以鞍馬一胡人共聽亦咨嗟)
- 十二 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その二(玉顏流落死天涯一豈知此声能断腸)
- 十三 小まとめ 王安石・欧陽脩の「明妃曲」について
- 十四 「昭君出塞」関連ビデオ
- 十五 まとめ 中国文学における王昭君故事の意義

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館、ネット情報等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像の視聴等を行う。

中国民族文化研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

調査発表や討論は日本語を主とするが、作成する資料等は中国文でも構わない。
また、wiki等のネット情報については、鵜呑みにするのではなく、批判的に活用するように心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

王昭君は中国漢代の人ですが、平安時代頃に日本にも知られるようになりました。特に平安初期の嵯峨天皇は王昭君を題にした漢詩を詠んだことで有名です。楊貴妃にしろ、李白にしろ、日本人はこれら外国人に身内のような親近感を持ちます。音楽やスポーツ同様、文学にも実は国境はありません。皆さんも、文字の違いはあっても国境は無い王昭君像に興味を持ってもらいたく思います。

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 古文真宝 少数民族 匈奴 王安石 欧陽脩

中国語教授法研究【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN553S	○	◎	△
科目名	中国語教授法研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

発音・文法・表現を中心として、現代言語学理論、特に認知言語学・機能主義・相互作用言語学の視点より日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

具体的な目標：

- 1) 翻訳法・直接法・機能法などの第二言語教授法について、それぞれの特徴を考察した上、中日比較による中国語教授法のシステムを確立させる。
- 2) 比較による中国語教授法における各段階の授業内容・細目を構築する。
- 3) 地球規模で一体化した現代世界で求められる人材における素質として外国語の学習能力と教育能力を身に付ける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。

【高い問題解決能力と表現力】

先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上で問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を自律的に取り込んで、自分なりの講義ポイントを主体的に積み重ねることができる。

教科書 /Textbooks

『中日比較による中国語教授法』（授業中配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 『基於比較的漢語教学法』 朋友書店
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及語語理解』 朋友書店
- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

中国語教授法研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 外国語教授法における「二大体系」・相互作用言語学 (Interactive linguistics) による教授法の新展開
- 第2回 第二言語教育の視点から中国語を見る
- 第3回 比較法による発音教育・語彙教育
- 第4回 品詞教授法の一：デフォルト値と場所性
- 第5回 品詞教授法之二：計量・個性化・イメージ化
- 第6回 品詞教授法之三：A B式・重ね型・区別詞
- 第7回 品詞教授法之四：方式視点と目的視点
- 第8回 品詞教授法之五：実現重視・変化重視・存続重視
- 第9回 品詞教授法之六：粘着と関連・接着剤と形式マーク
- 第10回 表現教授法の一：「主観任意性と無方向性」
- 第11回 表現教授法之二：「客観条件・技術能力・主観判断」
- 第12回 表現教授法之三：「補充と説明・主体説明と事項説明」
- 第13回 表現教授法之四：「常識依存と文脈依存」
- 第14回 表現教授法之五：「意味本位と形式本位」
- 第15回 教材の編成・練習問題設定・CEFRと能力測定・誤用対策

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100%で評価。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について、参考文献等を読み、中日両言語の実例を収集し、分析しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

参加型の講義なので、外国語を学習する経験を生かし、学習者の立場で積極的な効果的な教育方法を探索するよう望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「教学相長ず」という名言で言っているように、人に教えることと師から学ぶことは相補い合うもので、両方を経験してはじめて学業も向上する。是非この講義の参加を通じて自分の情報受信能力と思考発信能力を高めよう。

キーワード /Keywords

第二言語教授法 相互作用言語学 比較法 各教授法の教材編成における原則 CEFRと能力測定

中国民間文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT550S	○	◎	△
科目名	中国民間文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のキャリアマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日の中国にどう活かされているかについて考える。

授業では、毎回担当者が30分程度、『中国俗文学史』に示された当該題目について調査発表し、その後、受講生全員で自由討論する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と方言に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国民間文学に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

○『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）

※どの版を用いてもよい。ネット情報も、内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）

※どの版を用いてもよい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各章を前後二回に分け、担当者が前30分で内容紹介する。残りの時間は全員が自由に討論する。教員は適宜総括する。前期の予定は次の通りである。

- 一 はじめに 鄭振鐸と『中国俗文学史』について 【鄭振鐸の生涯と『中国俗文学史』の成書について学習する。】
- 二 第一章 何謂「俗文学」前半 【俗文学とは何か。前。正統文学と対比しつつ、その近代的意義を検討する。】
- 三 第一章 何謂「俗文学」後半 【俗文学とは何か。後。その分類を行い、中国文学史における特質を分析する。】
- 四 第二章 古代的歌謡 前半 【古代の歌謡。前。主に北方『詩経』の歌謡について、その特徴等を検討する。】
- 五 第二章 古代的歌謡 後半 【古代の歌謡。後。主に南方『楚辞』の歌謡について、その特性等を分析する。】
- 六 第三章 漢代的俗文学 前半 【漢代の俗文学。前。主に漢代初期の楚風文学について、その特徴等を検討する。】
- 七 第三章 漢代的俗文学 後半 【漢代の俗文学。後。主に古詩、無名氏の詩について、その特性等を分析する。】
- 八 第四章 六朝の民歌 前半 【六朝の民歌。前。主に六朝時代北朝の楽府について、その特徴等を検討する。】
- 九 第四章 六朝の民歌 後半 【六朝の民歌。後。主に六朝時代南朝の楽府について、その特性等を分析する。】
- 十 第五章 唐代的民間歌謡 前半 【唐代的民間歌謡。前。主に唐代前期の民間歌謡の特徴等を検討する。】
- 十一 第五章 唐代的民間歌謡 後半 【唐代的民間歌謡。後。主に唐代後期の民間歌謡の特性等を分析する。】
- 十二 第六章 敦煌変文 前半 【敦煌変文。前。敦煌変文の出土状況や分類について学習する。】
- 十三 第六章 敦煌変文 後半 【敦煌変文。後。王昭君や伍子胥等、正統文学と関わる諸作品について検討する。】
- 十四 第七章 宋金の雜劇詞 前半 【宋金代の雜劇詞。前。主に宋金代北方における雜劇詞の特徴等を検討する。】
- 十五 第七章 宋金の雜劇詞 後半 【宋金代の雜劇詞。後。主に宋金代南方における雜劇詞の特性等を分析する。】

中国民間文学研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日頃の授業への取り組み50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行う。ネット情報も内容に留意しつつ活用する。

履修上の注意 /Remarks

発表や質問は日本語を用いるが、作成資料は中文使用可です。
自由質問の時間は、全ての受講生に質問を促します。「何もありません」はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

発表資料の作成に当たって、wiki等のネット資料を渉猟することは差し支えありませんが、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に取り入れるように心がけてください。

キーワード /Keywords

鄭振鐸 中国俗文学史 民間文学

中国文化史研究【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS521S	○	◎	△
科目名	中国文化史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新劇や時事新劇の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国文化史理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国文化史に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国文化史に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

中国文化史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

比較広域文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE561S	○	◎	△
科目名	比較広域文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、世界各地に存在する有形・無形の文化財についての文献を講読し、文化財の保存・管理とその活用のありようや様々な問題点について見識を深めたい。また、論文の構成、主張の意義と妥当性、文章表現等について議論しながら論文の執筆方法を十分に理解し、履修者の修士論文に活かしたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針の説明
- 2回 文献講読【文化財の概念】
- 3回 文献講読【「世界遺産」の諸問題】
- 4回 文献講読【フランスにおける文化財の保存・管理】
- 5回 文献講読【日本における文化財の保存・管理】
- 6回 文献講読【イスラエルにおける文化財の保存・管理】
- 7回 文献講読【アラブ世界における文化財の保存・管理】
- 8回 文献講読【「無形文化遺産」の諸問題】
- 9回 文献講読【景観-日本-】
- 10回 文献講読【景観-ヨーロッパ-】
- 11回 文献講読【文化財と地域経済】
- 12回 文献講読【博物館と観光】
- 13回 文献講読【遺跡と観光】
- 14回 文献講読【アラブ世界における宗教の観光資源化】
- 15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度（授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙）・・・50%、期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講前には指定された文献を必ず読んでおくこと。発表者は入念に準備すること。受講後は、独習時には気づかなかった点、理解できなかった点などを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較広域文化研究 【昼】

キーワード /Keywords

ヨーロッパ比較文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE540S	○	◎	△
科目名	ヨーロッパ比較文化研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012. の精読を通じて、スペイン演劇の概要を知るとともに、それぞれの時代のスペイン内外の演劇テクストを参照しながら、その発展を考察する。授業参加者は担当箇所についての発表を行うものとし、その後、他の参加者との議論を行うものとする。

到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

スペイン演劇史について、専門的知識を培う。

《高い問題解決能力と表現力》

時代ごとの特徴を把握理解した上で、作品の比較研究、批評ができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

みずから設定した課題に、学術的に妥当なアプローチで取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アリストテレス『詩学』光文社古典新訳文庫、2019.

富田広樹『エフィメラル』論創社、2020.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業運営についての説明と書誌案内
2. 第1章の精読と発表
3. 第2章の精読と発表
4. 第3章の精読と発表
5. 第4章の精読と発表
6. 第5章の精読と発表
7. 第6章の精読と発表
8. 第7章の精読と発表
9. 第8章の精読と発表
10. 第9章の精読と発表
11. 第10章の精読と発表
12. 第11章の精読と発表
13. 第12章の精読と発表
14. 第13章の精読と発表
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、70% 学期末レポート、30%により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して成績評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された作品や文献の参照と授業内容のレビューをすること。

ヨーロッパ比較文化研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

題材はスペイン演劇であるが、テキストは英語なので、スペイン語を履修していなくても履修は可能。ただし十分な英語能力を有すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

イギリス文学研究に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

イギリス文学研究に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

イギリス文学研究に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 (Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 (Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 (Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 (Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 (Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 (木原) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 (木原) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 (木原) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 (木原) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 (木原) W. B. Yeatsと能
- 11回目 (田部井) 導入： D.H.Lawrence 全般について
(イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー)
- 12回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第一の島)
- 13回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第二の島)
- 14回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第三の島)
- 15回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (まとめ)

イギリス文学研究概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】担当教員によって課せられた作品を読み、それについて発表できる用意をすること。

【事後】授業でのディスカッションを振り返り、自分の考えを再考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科, 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。
DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

知識・理解

英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。

◎アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。

技能

高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。

◎アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。

態度

専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

○アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

1回目からは5回目まではプリントを使用してを、6回目から10回目まではOf Mice and Men (John Steinbeck) 南雲堂 (ISBN: 9784523054160)を、11回目から15回目まではThe Turn of the Screw (Henry James) W. W. Norton & Co. (ISBN: 9780393959048)を使用するので事前にアマゾンや生協で発注して購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- | | | |
|-------------------|-------------|-------|
| ○ 『アメリカ文学思潮史』 | 福田陸太郎 | 中教出版 |
| ○ 『アメリカ文学史 1、2、3』 | 亀井俊介 | 南雲堂 |
| ○ 『アメリカ文学必須用語辞典』 | スティーブン・マタソン | 松柏社 |
| ○ 『アメリカ文学案内』 | 寺門泰彦/渡辺信二 | 朝日出版社 |

必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

アメリカ文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	アメリカ小説研究	オリエンテーション/ Stephen Crane: "An Experiment in Misery"
Week 2:	アメリカ小説研究	Jacob Riis: from How the Other Half Lives
Week 3:	アメリカ小説研究	Henry Miller: "The Fourteenth Ward"
Week 4:	アメリカ小説研究	Vladimir Nabokov: "Signs and Symbols"
Week 5:	アメリカ小説研究	Edith Wharton: "After Holbien"
Week 6	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の暴力描写の特徴
Week 7	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の女性描写の特徴
Week 8	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の過去の位置づけ
Week 9	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の読者に対する戦略
Week 10	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の叙述の戦略性について
Week 11	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の語りの構造
Week 12	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の幽霊表象
Week 13	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の女性表象
Week 14	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw におけるジェンダー問題
Week 15	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の映像化作品の分析

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%
 以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、教員から与えられた課題を行うこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American literature
 Modernism
 Literary studies

英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の基本的理論を理解し、英語学研究分野に関する知識を深めることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

英語学研究に必要な基本的知識と理論を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

英語という言語を様々な視点から観察することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

理論に基づき、受講者自らが分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 地球語としての英語・英語の誕生
- 3回 近代英語の誕生
- 4回 英語の新大陸への進出
- 5回 英語の地域的変種
- 6回 英語の地球的拡散
- 7回 英語の社会的変種I (社会階級 ; 年齢)
- 8回 英語の社会的変種II (性差)
- 9回 英語の音声と音韻の仕組み
- 10回 英語の語彙と意味
- 11回 英語の文構造-生成文法の観点から-
- 12回 研究発表(1)
- 13回 研究発表(2)
- 14回 研究発表(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況（50%）、レポート（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

英語学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語教育学に関する高度な知識を身に付け、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。

【高い問題解決能力と表現力】

理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、高度な英語力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

英語教育法研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Assessment (JLH & NY)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention and noticing (JLH)
 Week 6: Vocabulary (JLH)
 Week 7: Second Language Pragmatics (JLH)
 Week 8: Explicit and Implicit Learning (NY)
 Week 9: Corrections and recasts (NY)
 Week 10: Individual differences (NY)
 Week 11: Social approaches (NY)
 Week 12: Diversity in EFL classrooms (NY)
 Week 13: Teacher development I (ICT skills) (NY)
 Week 14: Teacher development II (Literature in EFL classroom) (NY)
 Week 15: Presentations of research papers(JLH & NY)

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper: 40%
 In-class participation & discussion:10%
 Presentations (2):20%
 Weekly quizzes: 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare every week by reading the chapter. Then we will have a quiz in class the following week. You will also choose a research topic early in the semester and work on a paper throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

英語表現法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
Week 5: Research paper literature review
Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
Week 7: Research paper Questions & Variables
Week 8: Research paper Participants & Materials
Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
Week 11: Data analysis & data commentary language focus
Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
Week 13: The evil of Power Point (informational design)
Week 14: Getting published
Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

- 《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
- 《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
- 《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

現代イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（イメージの起源）
- 3回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（死）
- 4回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（再生）
- 5回 文学テキストへの応用（Charles Dickens）
- 6回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（イメージと神話）
- 7回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（歴史）
- 8回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（古代芸術）
- 9回 文学テキストへの応用（P. B. Shelley）
- 10回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（スペクトル）
- 11回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（映像）
- 12回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（遠隔視）
- 13回 文学テキストへの応用（W. B. Yeats）
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化研究 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国々の間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

DP に基づく 3つの到達目標

知識・理解：イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。

技能：国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。

態度：国々の文化、考え方を交換出来る架け橋となる。

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

イギリス文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%
This evaluation plan will be used to assess the degree to which the student has fulfilled the goals of the course as listed in the course description above.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparatory reading will be assigned on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名
/Instructor

ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ文学研究	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critica Edition ISBN: 978-0-393-96640-4

受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫

原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。

(他の文庫本は、原書の一部を割愛した形での翻訳となっている。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ文化研究	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

批評理論の読解に続いて短編を読み進め、多文化社会アメリカの様々な声に耳を傾けることで、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。必要に応じて映像資料を使用します。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカの文化に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

あらゆる資料を駆使し適切に分析して研究上の問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会の諸課題に自律的かつ主体的に向きあうことができる。

教科書 /Textbooks

Robert J. C. Young. Postcolonialism: A Very Short Introduction. Oxford UP, 2003.

※教科書の購入方法は第1回目の授業内で指示します。

※教科書はあらかじめ各自で入手しても構いません。その場合は授業開始時までにある程度読み進めておくことを奨励します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○アーニャ・ルーンバ著、吉原ゆかり訳『ポストコロニアル理論入門』

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』

その他、適宜、授業内で指示します。

アメリカ文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 インTRODクシヨN (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第 2 回 Introduction: Montage
- 第 3 回 Chapter 1: Subaltern Knowledge
- 第 4 回 Chapter 2: History and Power, From Below and Above
- 第 5 回 Chapter 3: Space and Land
- 第 6 回 Chapter 4: Hybridity
- 第 7 回 Chapter 5: Postcolonial Feminism
- 第 8 回 Chapter 6: Globalization from a Postcolonial Perspective
- 第 9 回 Chapter 7: Translation
- 第 1 0 回 Kate Chopin: "Desirée's Baby"
- 第 1 1 回 Charlotte Perkins Gilman: "The Yellow Wall-Paper"
- 第 1 2 回 Leslie Marmon Silko: "The Man to Send Rain Clouds"
- 第 1 3 回 Thomas King: "Borders"
- 第 1 4 回 Do the Right Thing (film)
- 第 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・小テスト ...60%
 発表 ...40%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
 また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

履修者には十分な英文読解力が身に付いていることが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う英語文献は必ず読んだ上で授業にのぞんでください。
 授業は議論形式で進めるため、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

ポストコロニアル理論、多様性、文化的アイデンティティ

社会言語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学の概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

社会言語学の概念や理論を理解する。

《高い問題解決能力と表現力》

日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉えることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受講者自らが調査・分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

(予定) 岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013). 『概説 社会言語学』. ひつじ書房
または Miriam Meyerhoff. (2011) Introducing Sociolinguistics, 2nd ed. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schleef and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.
その他の文献は授業時に紹介します。

社会言語学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 言語と地域
- 3回 言語と社会階級
- 4回 言語と民族
- 5回 言語とジェンダー
- 6回 言語と年齢
- 7回 言語の選択
- 8回 学生による第1回研究報告：先行研究(1)
- 9回 言語の状況差・適切さ
- 10回 学生による第2回研究報告：先行研究(2)
- 11回 ポライトネス
- 12回 学生による第3回研究報告：方法論
- 13回 会話のしくみ
- 14回 学生による第4回研究報告：結果
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況(50%)、レポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

『英語学研究概論』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語通訳研究 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 通訳として立っていくに必要な高度な語学力、多岐にわたる背景知識を身に付け、国際的な感性を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 通訳に必要な技能を身に付け、一定の条件下で適格な通訳を行なうことができる技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 通訳の自覚をもって、グローバル社会におけるコミュニケーターとして、また異文化コンサルタントとして務められる奉仕の姿勢を身に付ける。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		英語通訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。通訳といっても、ここではおもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思えます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいのかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。もちろん受講者ごとに通訳経験や能力も異なると思えますが、こうした点は配慮します。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に应用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思えます。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思えます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。受講者と相談の上で授業計画を再度見直すことがありますので、以下の計画通りに展開しない可能性があります。ご了解ください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめ

※ただし、これらの内容は参加者の過去の経験や実技能力に応じてかなり変更される可能性がありますので、ご了解下さい。

英語通訳研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
発表および実技100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリント教材は事前に配布しますので、前もって準備して参加して下さい。また、実技能力を高めるためにも、しっかり復習および事後の練習をお願いしたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

第二言語習得研究【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
									○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を習得する。	○ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

第二言語習得研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-Hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction & Assessment (JLH)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention & Noticing (JLH)
 Week 6: Learning vocabulary
 Week 7: Second Language Pragmatics
 Week 8: Explicit & Implicit Learning
 Week 9: Correction and recasts
 Week 10: Individual differences
 Week 11: Social approaches
 Week 12: Diversity in EFL classrooms
 Week 13: Teacher development I (ICT skills)
 Week 14: Teacher development II (Classroom management)
 Week 15: Presentation of research papers

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class participation & discussion: 10%
 Presentations (2): 20%
 Weekly quizzes: 30%
 Research Paper: 40%

第二言語習得研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will be expected to have read the textbook or selected readings for each class period and be prepared to participate in discussion of the topics. You will have a quiz over the reading weekly. During 2 weeks you will read an outside reading besides the chapter reading and present it in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

second language acquisition

中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木村 裕章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語法研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国言語文化領域及び他専攻の院生として、将来の研究と仕事に役立てる基本的な文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解した上で、実践的な練習を通じて、中国語の研究・教育能力を身につける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から主体的かつ積極的に研究課題を取り込んで、実践することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及話語理解』 朋友書店
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 大河内康憲編 『日本語と中国語の対照研究論文集（上・下）』くろしお出版
- 漢語対比言語学研究会 『漢語語言対比研究論叢4』 北京大学出版社

中国語法研究概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国語法研究概説（日本語と中国語における文法の違い）
- 第2回 構造主義言語学と構造主義文法（中国語への応用）
- 第3回 認知文法と中国語文法研究（認知モデルと文法規則）
- 第4回 「配価（結合価）文法」と中国語文法研究（語彙研究との関連性）
- 第5回 語義特徴分析理論と中国語文法研究（意義素と文構成）
- 第6回 格文法と中国語文法研究（格の種類、外国語習得への応用）
- 第7回 生成文法理論と中国語文法研究（普遍文法、句構造と変形、中国語への応用）
- 第8回 機能文法と中国語文法研究（中国語の情報構造、主題）
- 第9回 語用論と中国語文法研究（発話行為、異文化コミュニケーション）
- 第10回 これまでの重要な研究（著作・論文の紹介と問題点）
- 第11回 現代中国語文法研究における課題1（品詞分類）
- 第12回 現代中国語文法研究における課題2（動詞の分類）
- 第13回 現代中国語文法研究における課題3（主題について）
- 第14回 現代中国語文法研究における課題4（課題の考察と発表）
- 第15回 文法研究の今後の展望・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・コメント50%、期末試験50%によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1回目の授業以降に配布する資料について事前に読み込みをしておく。また、次の回までに与えられた課題について調査・分析を行い、提出の準備をする。

履修上の注意 /Remarks

自分の外国語習得実践を参考にし、非母語者に中国語を教える実践を想定して、中国語文法の理論的なレベルアップと実用能力を身につけることに心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は言語を構築する規則である。専攻分野に関係なく、研究を進め論文を作成する上で、文法理論とその運用能力が欠かせない。本講義は、中国語や言語学の知識・教育能力を身につけるための基礎を固めると同時に、広い視野から積極的な思考・問題提起など行うことを望んでいる。

キーワード /Keywords

現代中国語文法 文法理論 比較文法 文法の習得と教育

中国思想文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

清末から中華民国時代の1910年代、20年代30年代における中国思想文化運動について概説する。特に各時期を代表する思想家・作家および彼らの作品を通して、中国の思想文化状況をみていく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国思想文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：清末の思想文化状況の概観について
- 第2回：清末の政治状況について
- 第3回：張之洞の留学政策について
- 第4回：清末の留学政策と日本の留学生受け入れ態勢について
- 第5回：梁啓超の亡命および『論小説と群治之關係』と日本の政治小説について
- 第6回：胡適の『文学改良芻議』と五四文化運動について
- 第7回：陳独秀の『文学革命論』五四運動の意義について
- 第8回：魯迅の登場～初期の思想と日本留学について
- 第9回：魯迅の『狂人日記』の意義について
- 第10回：魯迅の『阿Q正伝』と清末民国初の文化社会について
- 第11回：魯迅の『薬』と清末の思想家秋瑾について
- 第12回：五四退潮期と魯迅の「彷徨」について
- 第13回：郁達夫『沈淪』～留日学生の悲哀について
- 第14回：田漢の戯曲から見る民国初期の社会状況について
- 第15回：文学研究会と創造社について

中国思想文化研究概論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、 授業時における発表・・・50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布されたプリント教材および授業中に指摘した文献についてその都度学習を深めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国哲学史研究【夜】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、儒教の大祖である孔子の生涯を連環画風に描いた『孔子聖蹟図』の和版を詳しく読むことによって、中国文化のあり方、明清代や朝鮮での孔子理解の違い、日本での受け止め方の特徴等について、種々の画像や説明文から学ぶことを目的とする。
演習では、早期の日本刊本である「孔子聖蹟之図」（1608慶長13年、嶋津家久跋刊）を中心に読み進める。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国哲学史に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

『孔子聖蹟図』和版集成、280頁。竹村則行編。2014年2月、花書院。
履修生に無料配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『孔子画伝 聖蹟図にみる孔子流浪の生涯と教え』（加地伸行著、集英社、1991年3月）

中国哲学史研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一、はじめに 『孔子聖蹟図』簡史解題、授業の進め方の説明。
 以下、上記『孔子聖蹟図』和版集成の2-44頁に影印する「孔子聖蹟之図」を底本として、各講時毎に担当者に、図像の解釈、小文の解釈について発表してもらう。授業の後半は、参加者全員で討論する。
- 二、「孔子聖蹟之図」2-4頁。
 三、「孔子聖蹟之図」5-7頁。
 四、「孔子聖蹟之図」8-10頁。
 五、「孔子聖蹟之図」11-13頁。
 六、「孔子聖蹟之図」14-16頁。
 七、「孔子聖蹟之図」17-19頁。
 八、「孔子聖蹟之図」20-22頁。
 九、「孔子聖蹟之図」23-25頁。
 十、「孔子聖蹟之図」26-28頁。
 十一、「孔子聖蹟之図」29-31頁。
 十二、「孔子聖蹟之図」32-34頁。
 十三、「孔子聖蹟之図」35-37頁。
 十四、「孔子聖蹟之図」38-41頁。
 十五、「孔子聖蹟之図」42-44頁。全体のまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の発表50%、授業時の質問等の授業態度50%。
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は、教科書に影印する他の聖蹟図はもちろん、その他の関連資料について、図書館、スマホ等を通じて自主的に幅広く予習復習することを希望する。

履修上の注意 /Remarks

教材の中国文は、日本独特の訓読文読解を学習する。特に外国人留学生は違和感が大きいかも知れないが、この機会に日本伝統の読解法を学習してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では孔子に関する図像や漢文について学びます。その背景には儒教があり、中国・日本・朝鮮その他外国における理解の仕方の微妙且つ大きな違いがあります。日本人・外国人学生を問わず、受講生自らが真摯に問いかけ、大きな展望が開けることを期待します。

キーワード /Keywords

孔子 聖蹟図 図像 漢文 儒教

中国古典文学研究【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『三国志演義』に引用されている三国時代の詩文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。それとともって、(1)作品を読んだり引用したりする際のテキスト選定、(2)作品を読む時の注意、(3)三国時代の詩文を多く収録する『文選』、(4)日本で中国の詩文を読む際に用いられてきた漢文訓読、などについて学ぶ。ほかに中国文学の日本における影響、展開についてもふれる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国古典文学に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国古典文学全般に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『詩歌三国志』（松浦友久、新潮社〔新潮選書〕、1998年）
- 『「三国志」漢詩紀行』（八木章好、集英社〔集英社新書〕、2009年）

ほか。

※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

中国古典文学研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『三国志』、『三国志演義』について / 建安文学、『文選』について
 第2回 『三国志演義』第四十八回
 第3回 曹操「短歌行」(『文選』巻27)
 第4回 『三国志演義』第二十二回
 第5回 陳琳「為袁紹檄劉予州」(『文選』巻44)
 第6回 『三国志演義』第七十九回
 第7回 曹植「七步詩」(『世説新語』文学、『太平広記』巻173など)
 第8回 『三国志演義』第四十四回
 第9回 曹植「登台賦」(『三国志』裴松之注引『魏紀』)
 第10回 『三国志演義』第九十一回
 第11回 諸葛亮「出師表」(『文選』巻37)
 第12回 諸葛亮「後出師表」(『三国志』裴松之注)
 第13回 『三国志演義』第七十八回
 第14回 曹操「遺令」(『三国志』魏書・武帝紀、『宋書』礼志ほか)
 第15回 【番外編-中国古典の日本における影響】日本の漢詩文
 注. 以上のように予定しているが、順番や取り上げる作品は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(50%) + レポート(50%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介する参考書等を利用して、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読んだり、調べたり、解釈したりしてもらうことがある。

キーワード /Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

中国語音声学研究【夜】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語学（音声学）の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語学（音声学）関連の資料を活用した調査研究能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代中国語の音声現象に対して関心を深めることができる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語音声学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では以下のことを学習目標とします。

- ①一般音声学、中国語音声学の基礎的知識を身につける。
- ②上記①の基礎的知識をもとに、中国語（普通話）の発音の変遷について学ぶ。
- ③興味のあるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

教科書 /Textbooks

- ①『中国語音声概説』佐藤昭編著 2020年 購入については、授業時に指示をする。
- ②必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語語音史 中古音から現代音まで』 佐藤昭著 白帝社 2002年
- 『中国語の歴史』 大島正二 大修館書店 2011年
- 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 日下恒夫著 アルク 2007年
- 『日本語母語話者に対する中国語発音教育の理論と実践』 松本洋子著 早稲田大学出版部 2012年
- 『教師のための中国語音声学』 平井勝利著 白帝社 2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音声学の基礎知識（1）――発音器官――
- 第3回 音声学の基礎知識（2）――言語音と音声記号――
- 第4回 中国語の声母とその発音
- 第5回 中国語の韻母とその発音
- 第6回 中国語の古代音と現代音（1）中国語の古今の発音が違うということ
- 第7回 中国語の古代音と現代音（2）数詞の発音の歴史的变化
- 第8回 中古音から現代音への変化（1）中古音とは
- 第9回 中古音から現代音への変化（2）中古以後の主な音韻変化
- 第10回 中国語の方言音と方言区分（1）方言区分
- 第11回 中国語の方言音と方言区分（2）方言音
- 第12回 発表
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

中国語音声学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (発表) . . . 50%、レポート . . . 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、テキストに目を通し予習してください。

事後学習については、図書館で授業内容に関連する論文や書籍を探し、次の発表の参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国語学習経験を有することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

まずは基礎的な知識を身につけ、この分野における研究方法について学びましょう。

キーワード /Keywords

中国語 声母 韻母 声調 音節 発音

中国語教育論研究【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

授業の概要

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門的知識・技能】

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論をベースにした外国語教育に関する研究論文及び実践報告を読む・理解することができる。

【高い問題解決能力と表現力】

外国語教育に関する実践報告を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

必要に応じて、アンケート調査や実践授業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

随時プリント配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

胡玉華 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』 東方書店、2009

村野井仁 『第2言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店、2006

中国語教育論研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 話題1-学習者を知る
1. 外国語をどう習得するか-認知的要因：知能及び適性
- 第2回 2. 外国語をどう習得するか-認知的要因：認知スタイル及び学習ストラテジー
- 第3回 3. 外国語をどう習得するか-情意的要因：動機
- 第4回 4. 外国語をどう習得するか-情意的要因：性格
- 第5回 5. 外国語をどう習得するか-社会文化的要因：母語の転移
- 第6回 6. 外国語をどう習得するか-社会文化的要因：異文化の受容
- 第7回 話題2-教授活動を知る
1. 何をどう教えるか-内容
- 第8回 2. 何をどう教えるか-方法
- 第9回 3. 何をどう教えるか-目標
- 第10回 話題3-中国語教育を知る
1. 中国における対外漢語
- 第11回 2. 非漢字圏における中国語教育
- 第12回 3. 日本における中国語教育-歴史
- 第13回 4. 日本における中国語教育-現在
- 第14回 5. 日本における中国語教育-最新動き
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50％）と課題の完成度（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本と欧米との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

日本文化と欧米文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

欧米の文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、と日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

比較文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the Course (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan (Dr. Williamson)
- 3回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States(Dr. Williamson)
- 4回 Island Nations:A Brief History of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 5回 The Role of the Monarchy: Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 6回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 7回 Value Patterns in the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 8回 Mid-Term Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 9回 The British and Japanese Education Systems (Dr. Creaser)
- 10回 Modern Life in Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 11回 Education in Japan and the United States(Dr. Williamson)
- 12回 Contemporary Family Life in Japan and the United States (Dr. Williamson)
- 13回 Cultural Calendars of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 14回 British and Japanese Cuisine: Some surprising similarities (Dr. Creaser)
- 15回 Final Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究概論【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、3名の教員が各5回授業を実施する。

1～5回

グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の5回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

6～10回

東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

11～15回

日本宗教史に関する研究の基礎的能力と方法を身につけるため、神道、日本仏教、神仏習合に関する文献を取り上げ、研究の素材となる漢文の文献の訓読と解釈について学んでいきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本文化に関する総合的知識と多角的な研究方法を習得することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

日本文化の諸領域の研究方法について習得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

1～5回コピーテキストを使用することがある。

6～10回毎回レジュメを配布する。

11～15回 テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

日本文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(講義の全体像)
- 2回 大衆文化研究史①大衆文化とは何か
- 3回 大衆文化研究史②1920年代を中心に
- 4回 大衆文化研究史③1950年代を中心に
- 5回 大衆文化資料の紹介とディスカッション
- 6回 7世紀仏教説話画・12世紀絵巻の時間表現-「信貴山縁起絵巻」等
- 7回 12世紀絵巻の時間表現-「源氏物語絵巻」
- 8回 釈迦の一生の絵画化・造形化
- 9回 阿弥陀来迎図-中世初頭の仏画
- 10回 北宋山水画・南宋山水画
- 11回 日本宗教史研究の概要
- 12回 神道に関する文献の講読
- 13回 日本仏教に関する文献の講読
- 14回 神仏習合に関する文献の講読1 奈良時代
- 15回 神仏習合に関する文献の講読2 平安時代

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ配布された資料・テキストは熟読すること。
受講する前に、こちらが提示した先行研究論文等の資料に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、指示された参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1～5回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積極的な発言が求められる。
- 6～7回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。
- 8～15回
テキストは授業時に配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 仏画 絵巻 宋代山水画 神道 仏教 神仏習合

言語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○	身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語および言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、棕田直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』 福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

言語学研究概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
- 第2回 音韻：音声、音素、異音（漆原）
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
- 第10回 移動現象（1）：格、A移動、主要部移動（葛西）
- 第11回 移動現象（2）：A-bar移動、島の制約（葛西）
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（35%）と期末レポート（65%）により、「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：文献の予習をすること（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
- 事後学習：教科書の練習問題や、担当教員が出す課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

このコースは「比較文学とは何か」という基本的な問いから始め、19世紀に生まれたこの研究分野を、歴史、領域、方法から考察する。本コースでは比較文学の定義を、一つの国の文学を他の国の文学と比較することで、それらの文学間の影響関係、交流関係について明らかにするという一般的な定義よりもかなり広く取りたい。そのために「キリスト教文学」という一つの比較の軸を用意し、通常の文学を縦割りに分けている言語の壁を取り払って考えてみたい。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つための文学、思想、文化に対する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

文学的資料を適切に分析して問題を解決することによって、比較文学において高度な研究を行うことができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

渡邊洋、『比較文学研究入門』（世界思想社）
山形和美、『岩のつばやき』（笠間選書）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

イヴ・シュヴレル、『比較文学入門』（白水社）
亀井俊介編、『現代の比較文学』（講談社学術文庫）
ディオニーズ・テュリシン、『理論比較文学』（而立書房刊）

その他授業の中で適宜紹介する。

比較文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較文学の前史と誕生
- 第2回 影響の研究
- 第3回 受容の研究
- 第4回 文学と他の芸術
- 第5回 文学と他の学問分野
- 第6回 翻訳の研究
- 第7回 ジャンルの研究
- 第8回 イズムの研究
- 第9回 対比研究
- 第10回 比較文学と隣接する学問
- 第11回 比較文学研究の実践に向けて
- 第12回 外国文学間の比較研究
- 第13回 類似と異同
- 第14回 比較文学の将来展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教文化研究【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門的知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他地域の宗教文化と比較して研究課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本宗教文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『小右記』の講読

平安時代摂関期の貴族・藤原実資の漢文日記である『小右記』から、長元4年の宗教に関する記事を取り上げ講読する。日本宗教文化の研究に不可欠な日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門知識を身につける。

《高い問題解決能力と表現力》

日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を通じて問題解決能力と論理的表現力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

高い倫理観に基づいて自律的に研究課題を考究する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

大日本古記録『小右記 八』（岩波書店）を教科書に指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）

その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方・『小右記』概要説明
- 2 回 『小右記』と古記録の読み方について
- 3 回 『小右記』講読 長元4年正月
- 4 回 『小右記』講読 長元4年2月
- 5 回 『小右記』講読 長元4年3月
- 6 回 『小右記』講読 長元4年4月
- 7 回 『小右記』講読 長元4年5月
- 8 回 『小右記』講読 長元4年6月
- 9 回 『小右記』講読 長元4年7月
- 10 回 『小右記』講読 長元4年8月
- 11 回 『小右記』講読 長元4年9月
- 12 回 『小右記』講読 長元4年10月
- 13 回 『小右記』講読 長元4年11月
- 14 回 『小右記』講読 長元4年12月
- 15 回 レポートの講評と全体のまとめ

日本宗教文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70%レポート30% によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は毎回割り当てられた漢文読解の発表準備をして臨んでもらう。
事後は指摘された問題点について考究してもらい、レポートの作成をしてもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『小右記』 日本宗教史

日本美術史研究【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本美術史の専門知識を修得する。美術史を専門とする学芸員の職を目指すことが可能なレベルの知識を身に付ける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本美術史の研究方法を修得し、美術史の学術論文を執筆する技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△	他文化圏の美術に対しての日本美術ならではの特性を理解する。
			日本美術史研究

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

仏教的説話を題材とする中世の絵巻を読み解くことによって、説話絵巻の基本と仏教的基礎知識との習得を目的とする授業である。14世紀に宮廷絵師・高階隆兼工房によって描かれた「玄奘三蔵絵巻」（大阪・藤田美術館所蔵）と、16世紀に狩野元信工房によって描かれた「釈迦堂縁起絵巻」（京都・清凉寺所蔵）を取り上げる。それぞれの絵巻の画面内容とストーリーを確認した上で、代表的な先行研究論文を輪読する。さらには、それらを踏まえて、先行研究論文によって示された諸説に対して批判を加えながらディスカッションを行う。以上を通して、美術史的な研究方法の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。但し、こちらが提示した先行研究論文を事前に読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 「玄奘三蔵絵巻」の内容①【唐から天竺へ】
- 3回 「玄奘三蔵絵巻」の内容②【天竺から唐へ】
- 4回 「玄奘三蔵絵巻」の内容③【仏典漢訳、インド風な仏像】
- 5回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 6回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読②【三蔵法師のイメージ形成】
- 7回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読③【制作背景】
- 8回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読④【宮廷絵師の伝統】
- 9回 5～8回を踏まえたディスカッション
- 10回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容①【仏伝】
- 11回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容②【清凉寺所蔵「釈迦如来立像」】
- 12回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 13回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読②【中世絵巻の学習】
- 14回 12～13回を踏まえたディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業への参加態度...50%

日本美術史研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、参考文献等に通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本表象文化研究【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本表象文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本の表象文化のうち、近年とくに注目されてきた大衆文化をとりあげて、議論する。前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。本年度は、1950年代～60年代を扱う大衆文化論を取りあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。本授業は、日本の大衆文化研究をテーマとする修士論文作成のために必要な知識と思考技術獲得を目指す。大衆文化を専門とする修士論文作成者を念頭においているため、テキスト講読と思考・表現のブラッシュアップのための発表・議論が授業の中心となる。

以下が本講義の習得目標である。大衆文化論は、自身の生活史、生活環境を見渡したうえで、他者や異文化のもつ意味について検討する想像力を磨く必要がある。異文化比較の視点をつねにもつように心がけたい。

高度な専門的知識・技能

日本の大衆文化についての高度な専門知識を講読を通して習得している

高い問題解決能力と表現力

先行研究の問題点の指摘ができ、必要な資料の探索が適切におこなえる。また適切なレジュメ作成と論じるべきテーマの発見ができる。

高い倫理観に基づいた自律的な行動力

他の受講者の見解によく耳を傾け、理解し、積極的な議論を展開できる。

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

日本表象文化研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読【1940年代】
- 第3回 テキスト講読【1950年代前半】
- 第4回 テキスト講読【1950年代後半】
- 第5回 テキスト講読【1960年代前半】
- 第6回 テキスト講読【1960年代後半】
- 第7回 テキスト講読【1970年代】
- 第8回 テーマ発表【問題設定】
- 第9回 テーマ発表【先行研究の整理】
- 第10回 テーマ発表【研究の意義】
- 第11回 テーマ発表【資料収集】
- 第12回 テーマ発表【資料比較】
- 第13回 テーマ発表【分析】
- 第14回 テーマ発表【解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・10%、講読発表・テーマ発表・・・90%

講読発表・テーマ発表、レポートによりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習

事後：テキスト講読の復習

履修上の注意 /Remarks

課題（文献の熟読）をおこない、授業に臨むこと。本授業は修士論文作成を目的とした専門性の高い内容を念頭においている。発表が頻繁に回ってくる可能性が高いため、十分な準備が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学研究 【夜】

担当者名 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△ 比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較広域文学研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

主にヨーロッパの悲劇論を読み解きます。

DPにもとづく到達目標

■ 高度な専門的知識・技能

-西洋の文学理論・芸術論の流れを把握し、現代の文学作品や文学論が何に對する反発・アンチテーゼであるのかを理解する。

■ 高い問題解決能力と表現力

-西洋の文学作品を、哲学・美学的な理論と結びつけて読み解き、論じることができる。

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

-難解な概念を用いて説かれた芸術論を、等身大の平易な表現に言い換えて、自分の言葉で説明できる。

教科書 /Textbooks

なし（随時、プリントを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：アリストテレス (Aristoteles ; 前384～前322)
- 第2回：アウグスティヌス (Aurelius Augustinus ; 354～430)
- 第3回：ルター (Martin Luther ; 1483～1546)
- 第4回：ドイツにおけるシェイクスピア論
- 第5回：カント (Immanuel Kant ; 1724～1804) とシラー (Friedrich von Schiller ; 1759～1805)
- 第6回：ヘーゲル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel ; 1770～1831)
- 第7回：バイロン (George Gordon Byron ; 1788～1824) と北村透谷 (1868～1894)
- 第8回：ニーチェ (Friedrich Nietzsche ; 1844～1900)
- 第9回：ベンヤミン (Walter Benjamin ; 1892～1940)
- 第10回：ブレヒト (Bertolt Brecht ; 1898～1956)
- 第11回：サルトル (Jean-Paul Sartre ; 1905～1980)
- 第12回：ベケット (Samuel Beckett ; 1906～1989)
- 第13回：カミュ (Albert Camus ; 1913～1960)
- 第14回：スタイナー (George Steiner ; 1929～)
- 第15回：総括

比較広域文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回授業末の演習シート (50%) + 期末レポート (50%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかによって評価をおこないます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業時に配布されるレジユメにまとめられた理論や概念を、授業外での読書や芸術鑑賞にも応用して考え、まとめた意見形成をして書き留めたと上で、それを次回授業時の演習シートで言語化してみてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学 悲劇 悲劇論 美学 哲学 芸術論 文学論 ヨーロッパ 西洋 演劇 批評

日英比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year
 単位 /Credits
 2単位
 学期 /Semester
 1学期
 授業形態 /Class Format
 演習
 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

日英比較文化研究に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

日英比較文化に関する資料を適切に分析することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

日英比較文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: What is culture? How do we define it?
Week 3: British and Japanese Culture: comparisons and contrasts.
Week 4: The Monarchy: UK
Week 5: The Monarchy: Japan
Week 6: The Monarchy in Present Day Britain
Week 7: The Monarchy in Present Day Japan
Week 8: Multicultural Britain: Migrants and Refugees
Week 9: Brexit: Social Implications
Week 10: The Changing Face of Japanese Society
Week 11: Music
Week 12: Media
Week 13: Food and Drink
Week 14: Presentations
Week 15: Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Report 30%
Presentation and Discussion 20%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to read relevant materials each week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will gain insight into historical and modern aspects of British society.

キーワード /Keywords

Britain, Japan

日米比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日米比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
 《高い問題解決能力と表現力》
 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

日米比較文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようにする。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (形態論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

形態論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語の音韻・形態に関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、音韻論・形態論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）（2016）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。東京：朝倉書店。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30%

発表 40%

期末レポート 30%

「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習

事後学習：課題の提出

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 統語論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身につけた専門知識を使って、統語現象およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 身につけた専門知識を生かし、統語論および実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようにする。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (統語論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

生成文法で提案されてきた統語理論を概観した後、日本語の様々な言語現象がどのように分析されてきたのかを概観する。また、受講生の興味に応じて、他言語の統語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- (2) 統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 句構造理論【統語範疇、c 統御、構成素テスト】
- 第3回 移動(1)【A移動、A'移動】
- 第4回 移動(2)【主要部移動、局所性】
- 第5回 補文構造【選択制限】
- 第6回 受け身【A移動】
- 第7回 格【格の交替】
- 第8回 かきまぜ【随意性】
- 第9回 省略(1)【名詞の省略】
- 第10回 省略(2)【動詞の省略】
- 第11回 省略(3)【節の省略】
- 第12回 否定【否定対極表現】
- 第13回 言語獲得【プラトンの問題】
- 第14回 疑問文【wh移動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)とレポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本古典文学研究【夜】

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、多文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を習得する。	○	日本古典文学に関する高度な知識を身に付け、多文化との比較研究を通じて、専門的職業人として、国際社会および地域社会に役立てる能力を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	深い日本古典文学の造詣を持つ高度な専門的職業人として、原典資料をはじめとするあらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	日本古典文学の専門知識を活かし、課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本古典文学研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中世文学、特に『義経記』を中心に関連作品を読むことによって、古典文学にみられる中世人の価値観・美意識や、作品が書かれ読まれた当時の歴史的・文化的背景についての分析・考察を行う。
文学作品を原典で読みこなすためのくずし字の読解力も、可能な限り身につけることを目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

日本の古典文学について高度な専門知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

適切な研究方法を身につけ、主体的に作品を分析検討する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究者として正しい研究態度で積極的に作品に取り組む姿勢を持っている。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『義経記』新日本古典文学全集 小学館
- 『義経記』日本古典文学大系 岩波書店
- 『室町物語集』上・下 新日本古典文学大系 岩波書店

日本古典文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション『義経記』とは
- 第2回 義経の誕生と平治の乱
- 第3回 義経の東下り
- 第4回 弁慶の誕生
- 第5回 弁慶の出家まで
- 第6回 弁慶と義経の出会い
- 第7回 義経と頼朝
- 第8回 義経の都落ち
- 第9回 吉野山と静御前
- 第10回 忠信との別れ
- 第11回 義経北国落ち
- 第12回 安宅の関と勸進帳
- 第13回 平泉へ
- 第14回 秀衡の死と衣川合戦
- 第15回 講義のまとめ、「室町ごろ」について

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加態度 20%
 - 発表の内容 40%
 - レポート 40%
- によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業で扱う内容については、それぞれ前後の物語もあわせて読んでおくこと。
- 関連作品について提示された時にはそれにも目を通しておくこと。
- 十分な調査に基づいて資料を準備し、発表に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 受講者の人数、関心によっては、扱う章段や作品を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT530S	◎	○	△
科目名	イギリス文学研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

イギリス文学研究に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

イギリス文学研究に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

イギリス文学研究に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 (Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 (Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 (Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 (Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 (Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 (木原) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 (木原) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 (木原) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 (木原) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 (木原) W. B. Yeatsと能
- 11回目 (田部井) 導入 : D.H.Lawrence 全般について
(イギリス小説全般の中の異端見として : 階級、性、ジェンダー、エコロジー)
- 12回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第一の島)
- 13回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第二の島)
- 14回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第三の島)
- 15回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

イギリス文学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】 担当教員によって課せられた作品を読み、それについて発表できる用意をすること。

【事後】 授業でのディスカッションを振り返し、自分の考えを再考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科, 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT531S	◎	○	△
科目名	アメリカ文学研究概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。
DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

知識・理解

英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。

◎アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。

技能

高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。

◎アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。

態度

専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

○アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

1回目からは5回目まではプリントを使用してを、6回目から10回目まではOf Mice and Men (John Steinbeck) 南雲堂 (ISBN: 9784523054160)を、11回目から15回目まではThe Turn of the Screw (Henry James) W. W. Norton & Co. (ISBN: 9780393959048) を使用するので事前にアマゾンや生協で発注して購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- | | | |
|------------------|------------|-------|
| ○『アメリカ文学思潮史』 | 福田陸太郎 | 中教出版 |
| ○『アメリカ文学史 1、2、3』 | 亀井俊介 | 南雲堂 |
| ○『アメリカ文学必須用語辞典』 | ステイブン・マタソン | 松柏社 |
| ○『アメリカ文学案内』 | 寺門泰彦/渡辺信二 | 朝日出版社 |

必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

アメリカ文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	アメリカ小説研究	オリエンテーション/ Stephen Crane: "An Experiment in Misery"
Week 2:	アメリカ小説研究	Jacob Riis: from How the Other Half Lives
Week 3:	アメリカ小説研究	Henry Miller: "The Fourteenth Ward"
Week 4:	アメリカ小説研究	Vladimir Nabokov: "Signs and Symbols"
Week 5:	アメリカ小説研究	Edith Wharton: "After Holbien"
Week 6	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の暴力描写の特徴
Week 7	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の女性描写の特徴
Week 8	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の過去の位置づけ
Week 9	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の読者に対する戦略
Week 10	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の叙述の戦略性について
Week 11	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の語りの構造
Week 12	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の幽霊表象
Week 13	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の女性表象
Week 14	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw におけるジェンダー問題
Week 15	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の映像化作品の分析

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%
 以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、教員から与えられた課題を行うこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American literature
 Modernism
 Literary studies

英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN530S	◎	○	△
科目名	英語学研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の基本的理論を理解し、英語学研究分野に関する知識を深めることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

英語学研究に必要な基本的知識と理論を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

英語という言語を様々な視点から観察することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

理論に基づき、受講者自らが分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 地球語としての英語・英語の誕生
- 3回 近代英語の誕生
- 4回 英語の新大陸への進出
- 5回 英語の地域的変種
- 6回 英語の地球的拡散
- 7回 英語の社会的変種I（社会階級；年齢）
- 8回 英語の社会的変種II（性差）
- 9回 英語の音声と音韻の仕組み
- 10回 英語の語彙と意味
- 11回 英語の文構造-生成文法の観点から-
- 12回 研究発表(1)
- 13回 研究発表(2)
- 14回 研究発表(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況（50%）、レポート（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

英語学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN550S	◎	○	△
科目名	英語教育法研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語教育学に関する高度な知識を身に付け、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。

【高い問題解決能力と表現力】

理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、高度な英語力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Assessment (JLH & NY)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention and noticing (JLH)
 Week 6: Vocabulary (JLH)
 Week 7: Second Language Pragmatics (JLH)
 Week 8: Explicit and Implicit Learning (NY)
 Week 9: Corrections and recasts (NY)
 Week 10: Individual differences (NY)
 Week 11: Social approaches (NY)
 Week 12: Diversity in EFL classrooms (NY)
 Week 13: Teacher development I (ICT skills) (NY)
 Week 14: Teacher development II (Literature in EFL classroom) (NY)
 Week 15: Presentations of research papers(JLH & NY)

英語教育法研究概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper: 40%
In-class participation & discussion:10%
Presentations (2):20%
Weekly quizzes: 30%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare every week by reading the chapter. Then we will have a quiz in class the following week. You will also choose a research topic early in the semester and work on a paper throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN531S	○	◎	△
科目名	英語表現法		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
Week 5: Research paper literature review
Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
Week 7: Research paper Questions & Variables
Week 8: Research paper Participants & Materials
Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
Week 11: Data analysis & data commentary language focus
Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
Week 13: The evil of Power Point (informational design)
Week 14: Getting published
Week 15: Research proposal or paper presentations

英語表現法 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT532S		○	◎	△
科目名		現代イギリス文学研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、"inhumanism"を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

- 《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
- 《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
- 《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

現代イギリス文学研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

イギリス文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT533S	○	◎	△
科目名	イギリス文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

バルテック、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(イメージの起源)
- 3回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(死)
- 4回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(再生)
- 5回 文学テキストへの応用(Charles Dickens)
- 6回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(イメージと神話)
- 7回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(歴史)
- 8回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(古代芸術)
- 9回 文学テキストへの応用(P. B. Shelley)
- 10回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(スペクトル)
- 11回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(映像)
- 12回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(遠隔視)
- 13回 文学テキストへの応用(W. B. Yeats)
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

イギリス文学研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化研究【夜】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE530S	○	◎	△
科目名	イギリス文化研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

DP に基づく 3 つの到達目標

知識・理解：イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能：国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度：国々の文化、考え方を交換出来る架け橋となる。

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

イギリス文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%
This evaluation plan will be used to assess the degree to which the student has fulfilled the goals of the course as listed in the course description above.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparatory reading will be assigned on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究【夜】

担当者名
/Instructor

ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科

履修年次 2年次
/Year単位 2単位
/Credits学期 1学期
/Semester授業形態 演習
/Class Formatクラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT534S	○	◎	△
科目名	現代アメリカ文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

現代アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

アメリカ文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT535S	○	◎	△
科目名	アメリカ文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫
原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。
(他の文庫本は、原書の一部を割愛した形での翻訳となっている。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE520S	○	◎	△
科目名	アメリカ文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

批評理論の読解に続いて短編を読み進め、多文化社会アメリカの様々な声に耳を傾けることで、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。必要に応じて映像資料を使用します。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカの文化に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

あらゆる資料を駆使し適切に分析して研究上の問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会の諸課題に自律的かつ主体的に向きあうことができる。

教科書 /Textbooks

Robert J. C. Young. Postcolonialism: A Very Short Introduction. Oxford UP, 2003.

※教科書の購入方法は第1回目の授業内で指示します。

※教科書はあらかじめ各自で入手しても構いません。その場合は授業開始時までにある程度読み進めておくことを奨励します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○アーニャ・ルーンバ著、吉原ゆかり訳『ポストコロニアル理論入門』

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』

その他、適宜、授業内で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第2回 Introduction: Montage
- 第3回 Chapter 1: Subaltern Knowledge
- 第4回 Chapter 2: History and Power, From Below and Above
- 第5回 Chapter 3: Space and Land
- 第6回 Chapter 4: Hybridity
- 第7回 Chapter 5: Postcolonial Feminism
- 第8回 Chapter 6: Globalization from a Postcolonial Perspective
- 第9回 Chapter 7: Translation
- 第10回 Kate Chopin: "Desirée's Baby"
- 第11回 Charlotte Perkins Gilman: "The Yellow Wall-Paper"
- 第12回 Leslie Marmon Silko: "The Man to Send Rain Clouds"
- 第13回 Thomas King: "Borders"
- 第14回 Do the Right Thing (film)
- 第15回 Review

アメリカ文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・小テスト ...60%
発表 ...40%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

履修者には十分な英文読解力が身に付いていることが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う英語文献は必ず読んだ上で授業にのぞんでください。
授業は議論形式で進めるため、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

ポストコロニアル理論、多様性、文化的アイデンティティ

社会言語学研究【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN511S	○	◎	△
科目名	社会言語学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学の概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

社会言語学の概念や理論を理解する。

《高い問題解決能力と表現力》

日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉えることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受講者自らが調査・分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

(予定) 岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013). 『概説 社会言語学』. ひつじ書房
または Miriam Meyerhoff. (2011) Introducing Sociolinguistics, 2nd ed. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schlee and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.
その他の文献は授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 言語と地域
- 3回 言語と社会階級
- 4回 言語と民族
- 5回 言語とジェンダー
- 6回 言語と年齢
- 7回 言語の選択
- 8回 学生による第1回研究報告：先行研究(1)
- 9回 言語の状況差・適切さ
- 10回 学生による第2回研究報告：先行研究(2)
- 11回 ポライトネス
- 12回 学生による第3回研究報告：方法論
- 13回 会話のしくみ
- 14回 学生による第4回研究報告：結果
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況 (50%)、レポート (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

社会言語学研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

『英語学研究概論』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語通訳研究 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN533S	○	◎	△
科目名	英語通訳研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。通訳といっても、ここではおもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思えます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいのかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。もちろん受講者ごとに通訳経験や能力も異なると思えますが、こうした点は配慮します。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に応用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思えます。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思えます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。受講者と相談の上で授業計画を再度見直すことがありますので、以下の計画通りに展開しない可能性があります。ご了解ください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 鎌治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパンタイムズ)などは参考になると思えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめ

※ただし、これらの内容は参加者の過去の経験や実技能力に応じてかなり変更される可能性がありますので、ご了解下さい。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
発表および実技100%

英語通訳研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリント教材は事前に配布しますので、前もって準備して参加して下さい。また、実技能力を高めるためにも、しっかり復習および事後の練習をお願いしたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

第二言語習得研究【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN52S	○	◎	△
科目名	第二言語習得研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-Hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction & Assessment (JLH)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention & Noticing (JLH)
 Week 6: Learning vocabulary
 Week 7: Second Language Pragmatics
 Week 8: Explicit & Implicit Learning
 Week 9: Correction and recasts
 Week 10: Individual differences
 Week 11: Social approaches
 Week 12: Diversity in EFL classrooms
 Week 13: Teacher development I (ICT skills)
 Week 14: Teacher development II (Classroom management)
 Week 15: Presentation of research papers

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class participation & discussion: 10%
 Presentations (2): 20%
 Weekly quizzes: 30%
 Research Paper: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You will be expected to have read the textbook or selected readings for each class period and be prepared to participate in discussion of the topics. You will have a quiz over the reading weekly. During 2 weeks you will read an outside reading besides the chapter reading and present it in class.

第二言語習得研究【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

second language acquisition

中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木村 裕章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN551S	◎	○	△
科目名	中国語法研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国言語文化領域及び他専攻の院生として、将来の研究と仕事に役立てる基本的な文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解した上で、実践的な練習を通じて、中国語の研究・教育能力を身につける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から主体的かつ積極的に研究課題を取り込んで、実践することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及語理解』 朋友書店
- 朱 德熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 大河内康憲編 『日本語と中国語の対照研究論文集(上・下)』くろしお出版
漢語対比言語学研究会『漢語語言対比研究論叢4』北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国語法研究概説(日本語と中国語における文法の違い)
- 第2回 構造主義言語学と構造主義文法(中国語への応用)
- 第3回 認知文法と中国語文法研究(認知モデルと文法規則)
- 第4回 「配価(結合価)文法」と中国語文法研究(語彙研究との関連性)
- 第5回 語義特徴分析理論と中国語文法研究(意義素と文構成)
- 第6回 格文法と中国語文法研究(格の種類、外国語習得への応用)
- 第7回 生成文法理論と中国語文法研究(普遍文法、句構造と変形、中国語への応用)
- 第8回 機能文法と中国語文法研究(中国語の情報構造、主題)
- 第9回 語用論と中国語文法研究(発話行為、異文化コミュニケーション)
- 第10回 これまでの重要な研究(著作・論文の紹介と問題点)
- 第11回 現代中国語文法研究における課題1(品詞分類)
- 第12回 現代中国語文法研究における課題2(動詞の分類)
- 第13回 現代中国語文法研究における課題3(主題について)
- 第14回 現代中国語文法研究における課題4(課題の考察と発表)
- 第15回 文法研究の今後の展望・まとめ

中国語法研究概論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・コメント50%、期末試験50%によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1回目の授業以降に配布する資料について事前に読み込みをしておく。また、次の回までに与えられた課題について調査・分析を行い、提出の準備をする。

履修上の注意 /Remarks

自分の外国語習得実践を参考にし、非母語者に中国語を教える実践を想定して、中国語文法の理論的なレベルアップと実用能力を身につけることに心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は言語を構築する規則である。専攻分野に関係なく、研究を進め論文を作成する上で、文法理論とその運用能力が欠かせない。本講義は、中国語や言語学の知識・教育能力を身につけるための基礎を固めると同時に、広い視野から積極的な思考・問題提起など行うことを望んでいる。

キーワード /Keywords

現代中国語文法 文法理論 比較文法 文法の習得と教育

中国思想文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE511S	◎	○	△
科目名	中国思想文化研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

清末から中華民国時代の1910年代、20年代30年代における中国思想文化運動について概説する。特に各時期を代表する思想家・作家および彼らの作品を通して、中国の思想文化状況をみていく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国思想文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：清末の思想文化状況の概観について
- 第2回：清末の政治状況について
- 第3回：張之洞の留学政策について
- 第4回：清末の留学政策と日本の留学生受け入れ態勢について
- 第5回：梁啓超の亡命および『論小説と群治之關係』と日本の政治小説について
- 第6回：胡適の『文学改良芻議』と五四文化運動について
- 第7回：陳独秀の『文学革命論』五四運動の意義について
- 第8回：魯迅の登場～初期の思想と日本留学について
- 第9回：魯迅の『狂人日記』の意義について
- 第10回：魯迅の『阿Q正伝』と清末民国初の文化社会について
- 第11回：魯迅の『薬』と清末の思想家秋瑾について
- 第12回：五四退潮期と魯迅の「彷徨」について
- 第13回：郁達夫『沈淪』～留日学生の悲哀について
- 第14回：田漢の戯曲から見る民国初期の社会状況について
- 第15回：文学研究会と創造社について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、 授業時における発表・・・50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布されたプリント教材および授業中に指摘した文献についてその都度学習を深めてもらいたい。

中国思想文化研究概論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国哲学史研究【夜】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS520S	○	◎	△
科目名	中国哲学史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、儒教の大祖である孔子の生涯を連環画風に描いた『孔子聖蹟図』の和版を詳しく読むことによって、中国文化のあり方、明清代や朝鮮での孔子理解の違い、日本での受け止め方の特徴等について、種々の画像や説明文から学ぶことを目的とする。
演習では、早期の日本刊本である「孔子聖蹟之図」（1608慶長13年、嶋津家久跋刊）を中心に読み進める。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国哲学史に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

『孔子聖蹟図』和版集成、280頁。竹村則行編。2014年2月、花書院。
履修生に無料配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『孔子画伝 聖蹟図にみる孔子流浪の生涯と教え』（加地伸行著、集英社、1991年3月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

一、はじめに 『孔子聖蹟図』簡史解題、授業の進め方の説明。

以下、上記『孔子聖蹟図』和版集成の2-44頁に影印する「孔子聖蹟之図」を底本として、各講時毎に担当者に、図像の解釈、小文の解釈について発表してもらう。授業の後半は、参加者全員で討論する。

二、「孔子聖蹟之図」2-4頁。

三、「孔子聖蹟之図」5-7頁。

四、「孔子聖蹟之図」8-10頁。

五、「孔子聖蹟之図」11-13頁。

六、「孔子聖蹟之図」14-16頁。

七、「孔子聖蹟之図」17-19頁。

八、「孔子聖蹟之図」20-22頁。

九、「孔子聖蹟之図」23-25頁。

十、「孔子聖蹟之図」26-28頁。

十一、「孔子聖蹟之図」29-31頁。

十二、「孔子聖蹟之図」32-34頁。

十三、「孔子聖蹟之図」35-37頁。

十四、「孔子聖蹟之図」38-41頁。

十五、「孔子聖蹟之図」42-44頁。全体のまとめ。

中国哲学史研究【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の発表50%、授業時の質問等の授業態度50%。
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は、教科書に影印する他の聖蹟図はもちろん、その他の関連資料について、図書館、スマホ等を通じて自主的に幅広く予習復習することを希望する。

履修上の注意 /Remarks

教材の中国文は、日本独特の訓読文読解を学習する。特に外国人留学生は違和感が大きいかも知れないが、この機会に日本伝統の読解法を学習してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では孔子に関する図像や漢文について学びます。その背景には儒教があり、中国・日本・朝鮮その他外国における理解の仕方の微妙且つ大きな違いがあります。日本人・外国人学生を問わず、受講生自らが真摯に問いかけ、大きな展望が開けることを期待します。

キーワード /Keywords

孔子 聖蹟図 図像 漢文 儒教

中国古典文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT520S	○	◎	△
科目名	中国古典文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

『三国志演義』に引用されている三国時代の詩文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。それとともに、(1)作品を読んだり引用したりする際のテキスト選定、(2)作品を読む時の注意、(3)三国時代の詩文を多く収録する『文選』、(4)日本で中国の詩文を読む際に用いられてきた漢文訓読、などについて学ぶ。ほかに中国文学の日本における影響、展開についてもふれる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国古典文学に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国古典文学全般に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『詩歌三国志』(松浦友久、新潮社[新潮選書]、1998年)
 - 『「三国志」漢詩紀行』(八木章好、集英社[集英社新書]、2009年)
- ほか。
※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『三国志』、『三国志演義』について / 建安文学、『文選』について
 第2回 『三国志演義』第四十八回
 第3回 曹操「短歌行」(『文選』巻27)
 第4回 『三国志演義』第二十二回
 第5回 陳琳「為袁紹檄劉予州」(『文選』巻44)
 第6回 『三国志演義』第七十九回
 第7回 曹植「七步詩」(『世説新語』文学、『太平広記』巻173など)
 第8回 『三国志演義』第四十四回
 第9回 曹植「登台賦」(『三国志』裴松之注引『魏紀』)
 第10回 『三国志演義』第九十一回
 第11回 諸葛亮「出師表」(『文選』巻37)
 第12回 諸葛亮「後出師表」(『三国志』裴松之注)
 第13回 『三国志演義』第七十八回
 第14回 曹操「遺令」(『三国志』魏書・武帝紀、『宋書』礼志ほか)
 第15回 【番外編-中国古典の日本における影響】日本の漢詩文
 注・以上のように予定しているが、順番や取り上げる作品は変わることがある。

中国古典文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介する参考書等を利用して、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読んだり、調べたり、解釈したりしてもらうことがある。

キーワード /Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

中国語音声学研究【夜】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN554S	○	◎	△
科目名	中国語音声学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では以下のことを学習目標とします。
 ①一般音声学、中国語音声学の基礎的知識を身につける。
 ②上記①の基礎的知識をもとに、中国語（普通話）の発音の変遷について学ぶ。
 ③興味のあるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

教科書 /Textbooks

- 『中国語音声概説』佐藤昭編著 2020年 購入については、授業時に指示をする。
- 必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語音史 中古音から現代音まで』佐藤昭著 白帝社 2002年
- 『中国語の歴史』大島正二 大修館書店 2011年
- 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』日下恒夫著 アルク 2007年
- 『日本語母語話者に対する中国語発音教育の理論と実践』松本洋子著 早稲田大学出版部 2012年
- 『教師のための中国語音声学』平井勝利著 白帝社 2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音声学の基礎知識(1)――発音器官――
- 第3回 音声学の基礎知識(2)――言語音と音声記号――
- 第4回 中国語の声母とその発音
- 第5回 中国語の韻母とその発音
- 第6回 中国語の古代音と現代音(1) 中国語の古今の発音が違うということ
- 第7回 中国語の古代音と現代音(2) 数詞の発音の歴史的变化
- 第8回 中古音から現代音への変化(1) 中古音とは
- 第9回 中古音から現代音への変化(2) 中古以後の主な音韻変化
- 第10回 中国語の方言音と方言区分(1) 方言区分
- 第11回 中国語の方言音と方言区分(2) 方言音
- 第12回 発表
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表)・・・50%、レポート・・・50%

中国語音声学研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、テキストに目を通し予習してください。
事後学習については、図書館で授業内容に関連する論文や書籍を探し、次の発表の参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国語学習経験を有することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

まずは基礎的な知識を身につけ、この分野における研究方法について学びましょう。

キーワード /Keywords

中国語 声母 韻母 声調 音節 発音

中国語教育論研究【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN555S	○	◎	△
科目名	中国語教育論研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

授業の概要

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門的知識・技能】

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論をベースにした外国語教育に関する研究論文及び実践報告を読む・理解することができる。

【高い問題解決能力と表現力】

外国語教育に関する実践報告を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

必要に応じて、アンケート調査や実践授業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

随時プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

胡玉華 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』 東方書店、2009
村野井仁 『第二言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店、2006

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 話題1-学習者を知る
1. 外国語をどう習得するかー認知的要因：知能及び適性
- 第2回 2. 外国語をどう習得するかー認知的要因：認知スタイル及び学習ストラテジー
- 第3回 3. 外国語をどう習得するかー情意的要因：動機
- 第4回 4. 外国語をどう習得するかー情意的要因：性格
- 第5回 5. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因：母語の転移
- 第6回 6. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因：異文化の受容
- 第7回 話題2-教授活動を知る
1. 何をどう教えるかー内容
- 第8回 2. 何をどう教えるかー方法
- 第9回 3. 何をどう教えるかー目標
- 第10回 話題3-中国語教育を知る
1. 中国における対外漢語
- 第11回 2. 非漢字圏における中国語教育
- 第12回 3. 日本における中国語教育ー歴史
- 第13回 4. 日本における中国語教育ー現在
- 第14回 5. 日本における中国語教育ー最新動き
- 第15回 まとめ

中国語教育論研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (50%) と課題の完成度 (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE560S	◎	○	△
科目名	比較文化研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 日本と欧米との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
 《高い問題解決能力と表現力》
 日本文化と欧米文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 欧米の文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、と日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the Course (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan (Dr. Williamson)
- 3回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States(Dr. Williamson)
- 4回 Island Nations:A Brief History of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 5回 The Role of the Monarchy: Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 6回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 7回 Value Patterns in the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 8回 Mid-Term Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 9回 The British and Japanese Education Systems (Dr. Creaser)
- 10回 Modern Life in Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 11回 Education in Japan and the United States(Dr. Williamson)
- 12回 Contemporary Family Life in Japan and the United States (Dr. Williamson)
- 13回 Cultural Calendars of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 14回 British and Japanese Cuisine: Some surprising similarities (Dr. Creaser)
- 15回 Final Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

比較文化研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
JPS500S		◎	○	△
科目名	日本文化研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、3名の教員が各5回授業を実施する。

1～5回

グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の5回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

6～10回

東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

11～15回

日本宗教史に関する研究の基礎的能力と方法を身につけるため、神道、日本仏教、神仏習合に関する文献を取り上げ、研究の素材となる漢文の文献の訓読と解釈について学んでいきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本文化に関する総合的知識と多角的な研究方法を習得することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

日本文化の諸領域の研究方法について習得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

1～5回コピーテキストを使用することがある。

6～10回毎回レジュメを配布する。

11～15回 テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

日本文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(講義の全体像)
- 2回 大衆文化研究史①大衆文化とは何か
- 3回 大衆文化研究史②1920年代を中心に
- 4回 大衆文化研究史③1950年代を中心に
- 5回 大衆文化資料の紹介とディスカッション
- 6回 7世紀仏教説話画・12世紀絵巻の時間表現-「信貴山縁起絵巻」等
- 7回 12世紀絵巻の時間表現-「源氏物語絵巻」
- 8回 釈迦の一生の絵画化・造形化
- 9回 阿弥陀来迎図-中世初頭の仏画
- 10回 北宋山水画・南宋山水画
- 11回 日本宗教史研究の概要
- 12回 神道に関する文献の講読
- 13回 日本仏教に関する文献の講読
- 14回 神仏習合に関する文献の講読1 奈良時代
- 15回 神仏習合に関する文献の講読2 平安時代

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ配布された資料・テキストは熟読すること。
受講する前に、こちらが提示した先行研究論文等の資料に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、指示された参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1～5回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積極的な発言が求められる。
- 6～7回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。
- 8～15回
テキストは授業時に配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 仏画 絵巻 宋代山水画 神道 仏教 神仏習合

言語学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN510S	◎	○	△
科目名	言語学研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語および言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定

その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、棕田直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の方法(漆原・葛西)
- 第2回 音韻：音声、音素、異音(漆原)
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント(漆原)
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音(漆原)
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ(漆原)
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性(漆原)
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造(漆原)
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞(漆原)
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配(葛西)
- 第10回 移動現象(1)：格、A移動、主要部移動(葛西)
- 第11回 移動現象(2)：A-bar移動、島の制約(葛西)
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ(葛西)
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト(葛西)
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞(葛西)
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論(葛西)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(35%)と期末レポート(65%)により、「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

言語学研究概論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習をすること（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

事後学習：教科書の練習問題や、担当教員が出す課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT500S	◎	○	△
科目名	比較文学研究概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

このコースは「比較文学とは何か」という基本的な問いから始め、19世紀に生まれたこの研究分野を、歴史、領域、方法から考察する。本コースでは比較文学の定義を、一つの国の文学を他の国の文学と比較することで、それらの文学間の影響関係、交流関係について明らかにするという一般的な定義よりもかなり広く取りたい。そのために「キリスト教文学」という一つの比較の軸を用意し、通常の文学を縦割りに分けている言語の壁を取り払って考えてみたい。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つための文学、思想、文化に対する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

文学的資料を適切に分析して問題を解決することによって、比較文学において高度な研究を行うことができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

渡邊洋、『比較文学研究入門』（世界思想社）
山形和美、『岩のつばやき』（笠間選書）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

イヴ・シュヴレル、『比較文学入門』（白水社）
亀井俊介編、『現代の比較文学』（講談社学術文庫）
ディオニーズ・テュリシン、『理論比較文学』（而立書房刊）

その他授業の中で適宜紹介する。

比較文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較文学の前史と誕生
- 第2回 影響の研究
- 第3回 受容の研究
- 第4回 文学と他の芸術
- 第5回 文学と他の学問分野
- 第6回 翻訳の研究
- 第7回 ジャンルの研究
- 第8回 イズムの研究
- 第9回 対比研究
- 第10回 比較文学と隣接する学問
- 第11回 比較文学研究の実践に向けて
- 第12回 外国文学間の比較研究
- 第13回 類似と異同
- 第14回 比較文学の将来展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
PHR510S	○	◎	△
科目名	日本宗教文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

『小右記』の講読

平安時代撰開期の貴族・藤原実資の漢文日記である『小右記』から、長元4年の宗教に関する記事を取り上げ講読する。日本宗教文化の研究に不可欠な日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門知識を身につける。

《高い問題解決能力と表現力》

日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を通じて問題解決能力と論理的表現力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

高い倫理観に基づいて自律的に研究課題を考究する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

大日本古記録『小右記 八』（岩波書店）を教科書に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）

その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方・『小右記』概要説明
- 2 回 『小右記』と古記録の読み方について
- 3 回 『小右記』講読 長元4年正月
- 4 回 『小右記』講読 長元4年2月
- 5 回 『小右記』講読 長元4年3月
- 6 回 『小右記』講読 長元4年4月
- 7 回 『小右記』講読 長元4年5月
- 8 回 『小右記』講読 長元4年6月
- 9 回 『小右記』講読 長元4年7月
- 10 回 『小右記』講読 長元4年8月
- 11 回 『小右記』講読 長元4年9月
- 12 回 『小右記』講読 長元4年10月
- 13 回 『小右記』講読 長元4年11月
- 14 回 『小右記』講読 長元4年12月
- 15 回 レポートの講評と全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% レポート30% によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は毎回割り当てられた漢文読解の発表準備をして臨んでもらう。

事後は指摘された問題点について考究してもらい、レポートの作成をしてもらう。

日本宗教文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『小右記』 日本宗教史

日本美術史研究【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
PHR511S	○	◎	△
科目名	日本美術史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

仏教的説話を題材とする中世の絵巻を読み解くことによって、説話絵巻の基本と仏教的基礎知識との習得を目的とする授業である。
14世紀に宮廷絵師・高階隆兼工房によって描かれた「玄奘三蔵絵巻」（大阪・藤田美術館所蔵）と、16世紀に狩野元信工房によって描かれた「釈迦堂縁起絵巻」（京都・清凉寺所蔵）を取り上げる。それぞれの絵巻の画面内容とストーリーを確認した上で、代表的な先行研究論文を輪読する。さらには、それらを踏まえて、先行研究論文によって示された諸説に対して批判を加えながらディスカッションを行う。以上を通して、美術史的な研究方法の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。但し、こちらが提示した先行研究論文を事前に読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 「玄奘三蔵絵巻」の内容①【唐から天竺へ】
- 3回 「玄奘三蔵絵巻」の内容②【天竺から唐へ】
- 4回 「玄奘三蔵絵巻」の内容③【仏典漢訳、インド風な仏像】
- 5回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 6回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読②【三蔵法師のイメージ形成】
- 7回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読③【制作背景】
- 8回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読④【宮廷絵師の伝統】
- 9回 5～8回を踏まえたディスカッション
- 10回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容①【仏伝】
- 11回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容②【清凉寺所蔵「釈迦如来立像」】
- 12回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 13回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読②【中世絵巻の学習】
- 14回 12～13回を踏まえたディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業への参加態度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本美術史研究【夜】

キーワード /Keywords

日本表象文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MCC510S	○	◎	△
科目名	日本表象文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本の表象文化のうち、近年とくに注目されてきた大衆文化をとりあげて、議論する。前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。本年度は、1950年代～60年代を扱う大衆文化論を取りあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。本授業は、日本の大衆文化研究をテーマとする修士論文作成のために必要な知識と思考技術獲得を目指す。大衆文化を専門とする修士論文作成者を念頭においているため、テキスト講読と思考・表現のブラッシュアップのための発表・議論が授業の中心となる。

以下が本講義の習得目標である。大衆文化論は、自身の生活史、生活環境を見渡したうえでの、他者や異文化のもつ意味について検討する想像力を磨く必要がある。異文化比較の視点をつねにもつように心がけたい。

高度な専門的知識・技能

日本の大衆文化についての高度な専門知識を講読を通して習得している

高い問題解決能力と表現力

先行研究の問題点の指摘ができ、必要な資料の探索が適切におこなえる。また適切なレジュメ作成と論じるべきテーマの発見ができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

他の受講者の見解によく耳を傾け、理解し、積極的な議論を展開できる。

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読【1940年代】
- 第3回 テキスト講読【1950年代前半】
- 第4回 テキスト講読【1950年代後半】
- 第5回 テキスト講読【1960年代前半】
- 第6回 テキスト講読【1960年代後半】
- 第7回 テキスト講読【1970年代】
- 第8回 テーマ発表【問題設定】
- 第9回 テーマ発表【先行研究の整理】
- 第10回 テーマ発表【研究の意義】
- 第11回 テーマ発表【資料収集】
- 第12回 テーマ発表【資料比較】
- 第13回 テーマ発表【分析】
- 第14回 テーマ発表【解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・10%、講読発表・テーマ発表・・・90%

講読発表・テーマ発表、レポートによりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

日本表象文化研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習
事後：テキスト講読の復習

履修上の注意 /Remarks

課題（文献の熟読）をおこない、授業に臨むこと。本授業は修士論文作成を目的とした専門性の高い内容を念頭においている。発表が頻繁に回ってくる可能性が高いため、十分な準備が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT501S	○	◎	△
科目名	比較広域文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

主にヨーロッパの悲劇論を読み解きます。

DPにもとづく到達目標

■高度な専門的知識・技能

-西洋の文学理論・芸術論の流れを把握し、現代の文学作品や文学論が何に対する反発・アンチテーゼであるのかを理解する。

■高い問題解決能力と表現力

-西洋の文学作品を、哲学・美学的な理論と結びつけて読み解き、論じることができる。

■高い倫理観に基づいた自律的行動力

-難解な概念を用いて説かれた芸術論を、等身大の平易な表現に言い換えて、自分の言葉で説明できる。

教科書 /Textbooks

なし（随時、プリントを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：アリストテレス (Aristoteles ; 前384～前322)
- 第2回：アウグスティヌス (Aurelius Augustinus ; 354～430)
- 第3回：ルター (Martin Luther ; 1483～1546)
- 第4回：ドイツにおけるシェイクスピア論
- 第5回：カント (Immanuel Kant ; 1724～1804) とシラー (Friedrich von Schiller ; 1759～1805)
- 第6回：ヘーゲル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel ; 1770～1831)
- 第7回：バイロン (George Gordon Byron ; 1788～1824) と北村透谷 (1868～1894)
- 第8回：ニーチェ (Friedrich Nietzsche ; 1844～1900)
- 第9回：ベンヤミン (Walter Benjamin ; 1892～1940)
- 第10回：ブレヒト (Bertolt Brecht ; 1898～1956)
- 第11回：サルトル (Jean-Paul Sartre ; 1905～1980)
- 第12回：ベケット (Samuel Beckett ; 1906～1989)
- 第13回：カミュ (Albert Camus ; 1913～1960)
- 第14回：スタイナー (George Steiner ; 1929～)
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回授業末の演習シート (50%) + 期末レポート (50%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかによって評価をおこないます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業時に配布されるレジュメにまとめられた理論や概念を、授業外での読書や芸術鑑賞にも応用して考え、まとめた意見形成をして書き留めとめた上で、それを次回授業時の演習シートで言語化してみてください。

比較広域文学研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学 悲劇 悲劇論 美学 哲学 芸術論 文学論 ヨーロッパ 西洋 演劇 批評

日英比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year
 単位 /Credits
 2単位
 学期 /Semester
 1学期
 授業形態 /Class Format
 演習
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE562S	○	◎	△
科目名	日英比較文化研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

日英比較文化研究に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

日英比較文化に関する資料を適切に分析することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
 Week 2: What is culture? How do we define it?
 Week 3: British and Japanese Culture: comparisons and contrasts.
 Week 4: The Monarchy: UK
 Week 5: The Monarchy: Japan
 Week 6: The Monarchy in Present Day Britain
 Week 7: The Monarchy in Present Day Japan
 Week 8: Multicultural Britain: Migrants and Refugees
 Week 9: Brexit: Social Implications
 Week 10: The Changing Face of Japanese Society
 Week 11: Music
 Week 12: Media
 Week 13: Food and Drink
 Week 14: Presentations
 Week 15: Discussion and Review

日英比較文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Report 30%
Presentation and Discussion 20%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to read relevant materials each week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will gain insight into historical and modern aspects of British society.

キーワード /Keywords

Britain, Japan

日米比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE563S	○	◎	△
科目名	日米比較文化研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
 《高い問題解決能力と表現力》
 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II: Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

日米比較文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN512S	○	◎	△
科目名	理論言語学研究 (形態論)		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

形態論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語の音韻・形態に関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、音韻論・形態論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) (2016)『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。東京：朝倉書店。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30%

発表 40%

期末レポート 30%

「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習

事後学習：課題の提出

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN513S	○	◎	△
科目名	理論言語学研究 (統語論)		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

生成文法で提案されてきた統語理論を概観した後、日本語の様々な言語現象がどのように分析されてきたのかを概観する。また、受講生の興味に応じて、他言語の統語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- (2) 統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 句構造理論【統語範疇、c 統御、構成素テスト】
- 第3回 移動(1)【A移動、Aバー移動】
- 第4回 移動(2)【主要部移動、局所性】
- 第5回 補文構造【選択制限】
- 第6回 受け身【A移動】
- 第7回 格【格の交替】
- 第8回 かきまぜ【随意性】
- 第9回 省略(1)【名詞の省略】
- 第10回 省略(2)【動詞の省略】
- 第11回 省略(3)【節の省略】
- 第12回 否定【否定対極表現】
- 第13回 言語獲得【プラトンの問題】
- 第14回 疑問文【wh移動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)とレポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

キーワード /Keywords

日本古典文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT521S	○	◎	△
科目名	日本古典文学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中世文学、特に『義経記』を中心に関連作品を読むことによって、古典文学にみられる中世人の価値観・美意識や、作品が書かれ読まれた当時の歴史的・文化的背景についての分析・考察を行う。
文学作品を原典で読みこなすためのくずし字の読解力も、可能な限り身につけることを目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

日本の古典文学について高度な専門知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

適切な研究方法を身につけ、主体的に作品を分析検討する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究者として正しい研究態度で積極的に作品に取り組む姿勢を持っている。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『義経記』新日本古典文学全集 小学館
- 『義経記』日本古典文学大系 岩波書店
- 『室町物語集』上・下 新日本古典文学大系 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション『義経記』とは
- 第2回 義経の誕生と平治の乱
- 第3回 義経の東下り
- 第4回 弁慶の誕生
- 第5回 弁慶の出家まで
- 第6回 弁慶と義経の出会い
- 第7回 義経と頼朝
- 第8回 義経の都落ち
- 第9回 吉野山と静御前
- 第10回 忠信との別れ
- 第11回 義経北国落ち
- 第12回 安宅の関と勸進帳
- 第13回 平泉へ
- 第14回 秀衡の死と衣川合戦
- 第15回 講義のまとめ、「室町ごろ」について

日本古典文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 20%
発表の内容 40%
レポート 40%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う内容については、それぞれ前後の物語もあわせて読んでおくこと。
関連作品について提示された時にはそれにも目を通しておくこと。
十分な調査に基づいて資料を準備し、発表に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者の人数、関心によっては、扱う章段や作品を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords